



23,000件以上の手術実績を誇る白内障手術では、老眼治療も兼ねた「多焦点眼内レンズ」を積極的に推奨している。一般的な単焦点レンズに比べ、遠くから近くまでピントを合わせることができ、眼鏡が不要となる。この治療において重要となるのが、求める見え方が患者ごとに異なる点に対応し、最適なレンズを選択すること。さらに、その手術を精確に行うため、最先端フェムトセカンドレーザーを導入し手術精度を上げている。

**希少な最先端  
白内障手術機器**



上) 院内は機能的でシンプルモダンな落ち着いたデザインで統一。下) つくばでは少ない緑内障専門外来。進行抑制のために視野計、OCT、最先端の低侵襲緑内障手術も数多く実施



**Data**  
高田眼科  
つくば市春日3-18-1 ☎029-863-3711  
診療時間/ 8:30～13:30、14:30～17:00、  
土曜 8:30～12:00 (基本予約制)  
休日/ 日曜、祝日  
<https://www.takada-ganka.co.jp/>

高田眼科の要となるのは、10名の専門医師たちの連携。常に「自分や家族だったらどうするのか」という患者ファーストで情報を共有し、治療方針を話し合っている。また、看護師、視能訓練士、事務スタッフも、チーム高田の一員として高い意識をもって診療に従事。そのために最新医療について、頻りに院内で勉強会を開催している。

**チーム医療  
専門医による**



院長 高田眞智子さん 副院長 有本剛さん 医師 遠藤由華さん 医師 林久美さん

**“瞳に光と希望を” 理念に**



高田眼科では診察をはじめ、手術に至るまで、治療内容をすべてオープンにしている。院内にある公開型手術室では、家族や付き添いの待機スペースから手術の様子を見学できるだけでなく、モニターに映る手術の状況を見届けられる。これは、手術に対する、高田眼科の自負と責任感の証といえる。

**家族も安心の  
公開型手術室**

**超広角無散瞳  
デジタル  
眼底カメラ**

散瞳をしなくて眼底の約9割が映し出せるという、驚異的な眼底カメラ。この機器の導入により、通院時間を短縮し、患者の通院負担を劇的に軽減することができる。また、自身で眼底を確認できる点で非常に安心感が高い。



部屋ごとに色分けされた診察室。プライバシーが重視され、明るい雰囲気不安な心が和らぐ

び寄るといわれている。人間ドックなどの検診で目の病気が判明した時我々はどうに対応すべきなのだろうか。「患者様やご家族が病気を理解し、安心して通院を続けられることがまず重要です。当院では、患者様の日常生活に支障がでないよう、身近なホームドクターとして寄り添った治療プランを提案しています。そのため、日々切磋琢磨しているマンパワーと最新医療機器を総動員してまいります。私たちが目指すのは、患者様の瞳に光と希望を絶やささないことと、熱く語る高田さん。最新・最良の治療で目の健康を守る事ができる安心感。高田眼科を一度訪れれば、そのホスピタリティの高さを肌で感じる事ができる。

今年で開院20年の節目を迎える『高田眼科』。院長の高田眞智子さんは、すべての人の瞳から希望があふれる医院を目指して開業。つくばに暮らす人々の目の健康を守るホームドクターとして日々奮闘している。高田眼科は、都市部の大病院をも凌駕する、最新設備と高い技術力を兼ね備えている。特に日帰り手術眼科施設として、白内障、緑内障、眼瞼下垂、硝子体手術に特化し、その手腕を発揮している。その一方、地元密着型の眼科として、患者に寄り添った医療体制を整えていることでも、地元住民から大きな信頼を得ている。「各疾患の専門ドクターがリーダーとなり、疾患ごとの医療技術還元することで、眼科全体のワンチームで、患者様の治療にあたっています。『目』は健康寿命を維持するために、最も重要な感覚器官です。視力の低下は、時に認知症やうつの原因にもなり、より良い生活(QOL)のためには、より良く見える(QOV)ことが不可欠です。当院では、生涯快適に見えるよう、老眼治療としての多焦点眼内レンズをはじめ、乱視矯正や緑内障が進まない工夫、その他、加齢により生じる目の不快を、最大限取り除く提案をしています。目の病気は、主に30代後半から忍

**最先端医療を通して  
地域に貢献**

高田眼科 院長  
高田眞智子さん

**PROFILE**

兵庫県芦屋市生まれ。1990年横浜市立大学医学部卒。結婚を機につくばに転居し、東京医科大学眼科学教室転局。小田原市立病院、筑波中央病院、東京医大霞ヶ浦病院を経て2000年12月高田眼科を開院。医学博士、日本眼科専門医



豊かな暮らしを支える

**先進技術**



advanced technology

community medicine

**地域医療とは。**

「つくば」という土地に根付き、地元の人たちの「眼の健康」を守り続ける高田眼科。院長の高田眞智子さんはこの街を深く愛し、この街の人々の目の健康を第一に考え社会貢献を果たす。

写真=宮本信義 文=並木政孝

**先進医療と町医者  
二つの魅力を叶える**

今年で開院20年の節目を迎える『高田眼科』。院長の高田眞智子さんは、すべての人の瞳から希望があふれる医院を目指して開業。つくばに暮らす人々の目の健康を守るホームドクターとして日々奮闘している。高田眼科は、都市部の大病院をも凌駕する、最新設備と高い技術力を兼ね備えている。特に日帰り手術眼科施設として、白内障、緑内障、眼瞼下垂、硝子体手術に特化し、その手腕を発揮している。その一方、地元密着型の眼科として、患者に寄り添った医療体制を整えていることでも、地元住民から大きな信頼を得ている。「各疾患の専門ドクターがリーダーとなり、疾患ごとの医療技術還元することで、眼科全体のワンチームで、患者様の治療にあたっています。『目』は健康寿命を維持するために、最も重要な感覚器官です。視力の低下は、時に認知症やうつの原因にもなり、より良い生活(QOL)のためには、より良く見える(QOV)ことが不可欠です。当院では、生涯快適に見えるよう、老眼治療としての多焦点眼内レンズをはじめ、乱視矯正や緑内障が進まない工夫、その他、加齢により生じる目の不快を、最大限取り除く提案をしています。目の病気は、主に30代後半から忍